

イネツトムシの発生時期は平年より早いと予想されます

**遅植えの水稲や飼料用稲では、特に発生に注意し、
防除適期を逃さずに確実に防除を実施しましょう**

[現在の発生状況]

- ① 7月上旬現在、イネツトムシ第一世代幼虫によるツト数は平年並～やや少ない（表1）。
- ② イネツトムシの第二世代幼虫の発生時期は、平年より早いと予想される（イネツトムシの発育に有効な気温の積算値から算出）。

表1 イネツトムシ第一世代幼虫の発生状況（平成23年7月上旬調査）

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			ツト数/25株		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	11	10	2-6	0.1	0.2	2-6
県央 (15)	0	9	8-11	0	0.1	8-11
鹿行 (6)	33	10	1-2	0.3	0.1	2-3
県南 (19)	5	13	8-10	0.1	0.2	8-10
県西 (9)	0	22	10-11	0	0.3	10-11
全県 (58)	7	13	9	0.1	0.2	9

- 1) 平年：平成13～22年までの10年間の平均値を示す。
- 2) 順位：過去11年間に於ける本年値の順位を示す（2-6は2位から6位まで同じ数値であることを表す）。

[防除対策]

- ① 周辺に比べて田植えが遅い、窒素が多い等の理由で葉色が濃い水田では、産卵が集中するので発生に注意する。特に、震災の影響により田植えが遅れた水田や飼料用稲はこれらの条件にあてはまるため発生に注意が必要である。
- ② 被害が大きくなる第二世代幼虫の防除適期は、県央・鹿行・県南・県西地域では7月下旬、県北地域では7月末～8月初めと予想される。この時期に水田をよく観察し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期（写真1））に薬剤防除を実施する（表2）。（農業総合センター農業研究所ホームページ（<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>）内の「主要な研究成果・平成16年度」の「稲発酵粗飼料栽培におけるイネツトムシの防除適期」を参照）。
- ③ 上位葉が食害されると収量・品質の低下を招く。また、葉をつづり合わせてツト（巢）（写真2）を作り、出穂を妨げることがあるので、防除は遅れないようにする。

表 2 稲のイネツトムシに登録のある主な薬剤（平成 23 年 7 月 6 日現在）

防除対象作物		薬 剤 名	使用量または 希釈倍数	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分	有効成分の 総使用回数
水稻	飼料イネ					
○	○	パダン粒剤 4	3~4kg/10a	30-6	カルタップ	6 (種もみ浸漬 1, 床土への混和 及び育苗箱へ の処理及び側 条施用合計 1)
○	○	パダン SG 水溶剤	1,500 倍	21-6		
○		ディブテレックス乳剤	1,000 倍	14-4	DEP	4

注 1) 飼料イネの農薬使用については、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル改訂版（全国飼料増産行動会議他編）を参照する。

注 2) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用する。

注 3) 水田において農薬を使用する時は、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに、止水期間は一週間程度とする。

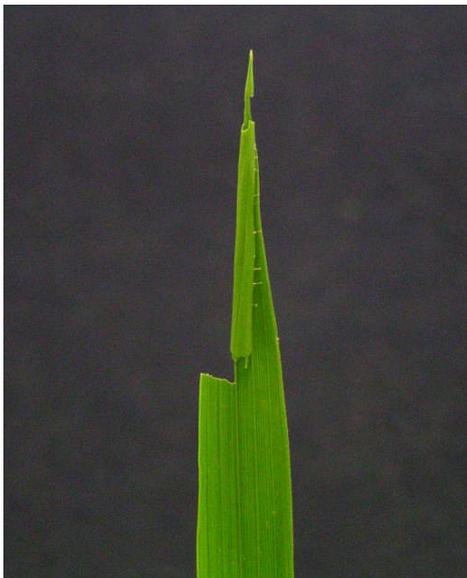


写真 1 イネツトムシ若齢幼虫による被害



写真 2 イネツトムシ幼虫による被害 (ツト)



写真 3 イネツトムシ老齢幼虫